



SGH
スーパー グローバル ハイスクール

SGHへの全校での取り組み
平成26年度指定校
筑波大学附属高等学校
SGH連絡協議会 平成29年6月16日

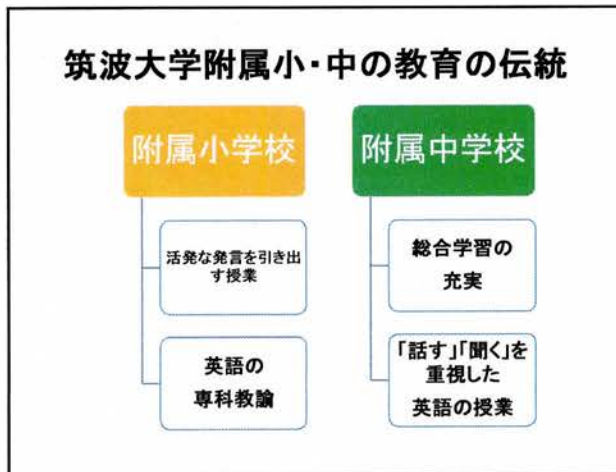
本校の過去の取り組み
課題解決型学習は、以前にも行われていた学習である。

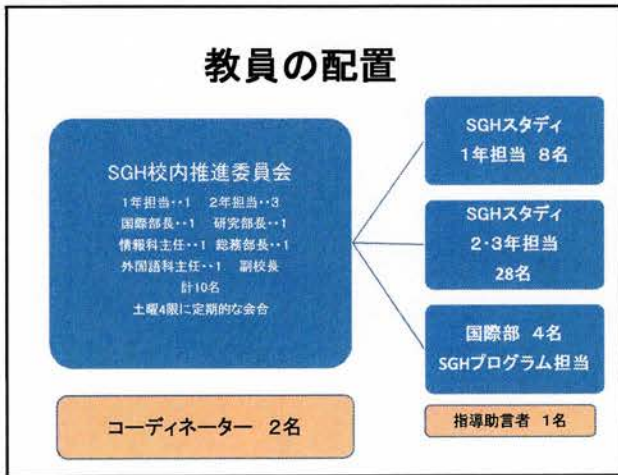
- 1964～1974
 - 基礎科学講座
- 1975～数年
 - 月曜スタディ (必修クラブ)
- 2005～2009
 - 金曜スタディ (総合学習・3年生)



SGHを通して伸ばしたい能力

- (1) 専門性と教養
- (2) 問題解決力
- (3) コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力
- (4) 主体性と協調性
- (5) 異文化理解の柔軟性と日本人としてのアイデンティティ
- (6) 高い語学力
- (7) 議論する力
- (8) 地球規模の視点





様々な教科の教員が担当にあっています

科学の考え方	小澤教諭(物理)
統計的なものの見方・考え方	矢野教諭(数学)
データの収集	速水教諭(情報)
データの分析	山田研也教諭(数学)
様々な情報収集の仕方・考え方	中村教諭(地理)
プレゼンテーションとその準備	山田 剛教諭(生物)
グループでのアイデア発想	和田教諭(美術)
アカデミック・ライティング入門	大内教諭(国語)

SGHスタディ(生徒全員)

第1学年 基礎的技能修得

→ 2学年以降の課題研究に備えて、基礎的な技能を身につける。

第2・3学年 課題研究

→ グループまたは個人で、グローバルな課題を発見し、課題に関する調査・研究を行う。議論を重ね、解決法などを発表・提案する。



第1学年 SGHスタディ

1年間の学習内容	コマ数	毎週土曜日の3限
ガイダンス	1	
科学の考え方	3	
統計的なものの見方・考え方	3	
データの収集	3	
データの分析	3	
様々な情報収集の仕方・考え方	3	
プレゼンテーションとその準備	3	
グループでのアイデア発想	3	
アカデミック・ライティング	3	
予備日(講演等)	2	
SGHスタディ(2年次)に向けて	1	
合計	28	



②-1 授業から



〈情報の収集〉



現在、1、2年教室にプロジェクター及びスクリーンを設置済み。3年教室にも設置を検討

②-4 授業から

〈様々な情報収集の仕方・考え方〉



図書館の利用⇒



〈プレゼンテーションとその準備〉

⇐情報室の利用

②-2 授業から



〈科学の考え方〉



第2学年 SGHスタディ

今年の2学年は、基礎的技術修得の時間が設けられていなかったため、学習の中に「基礎的内容」を含んでいる。

毎週土曜日の3限

1年間の学習内容	コマ数
オリエンテーション等学年全体での準備活動	4
持ち回り講義(教員主体)	3
講演会(外部講師による)	2
グループごとの活動	12
報告会(分野別/学年全体)	4
合計	25

②-3 授業から

〈グループでのアイデア発想〉

グループワークとして量を重視した発想、アイデアに対してはよし悪しを精査しない、アイデアを可視化する等をもとに個々の課題に対してどういことができるかを考え、そこから全体の問題解決のための方法を提案する。具体的に、限界集落・高齢化・人口減の問題を取り上げて考える活動を行った。



3つの課題分野



オリンピック・パラリンピックにおける諸課題

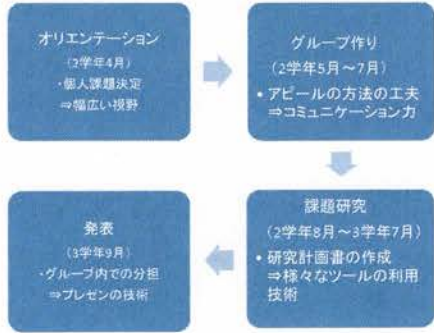


地球規模で考える生命・環境・災害



グローバル化と政治・経済・外交
 ・政治 ・日本論
 ・経済 ・宗教セッション

課題研究の流れ(29年度3学年)



② 4月～7月の様子

主に研究課題の決定とグループ作り

【課題アピール・仲間作り】



医療
経済

様々なコミュニケーション方法を駆使しての
グループ作り

① オリエンテーション

海外派遣経験のある3年生によって行われました



【グループ決定・研究開始】

様々なツールの必要性



3年生による 課題解決学習のポイントの授業

個人指導 2013年4月～2013年7月 (140名程度参加)

【3年生による課題解決学習のポイント】

1. 課題の抽出
2. 課題の抽出
3. 課題の抽出

プリントも
三年生の手作り



担当教員との ディスカッション





研究手順話し合い




③ 9月～1月の様子

夏休み 海外派遣報告会	桐陰祭(28年9月)での スタディプログラム報告
各グループ 課題研究継続	
訪問調査活動	中間報告会 (29年1月)





研究計画書作成




【9月 海外派遣生徒による SGHスタディでの報告会】

1学年、2学年それぞれの
SGHスタディ授業で
行われました。

英語での
プレゼンテーション

**分野別
夏休み前中間報告会**





【桐陰祭(文化祭)9月初旬】

海外派遣生徒によるプレゼンテーション




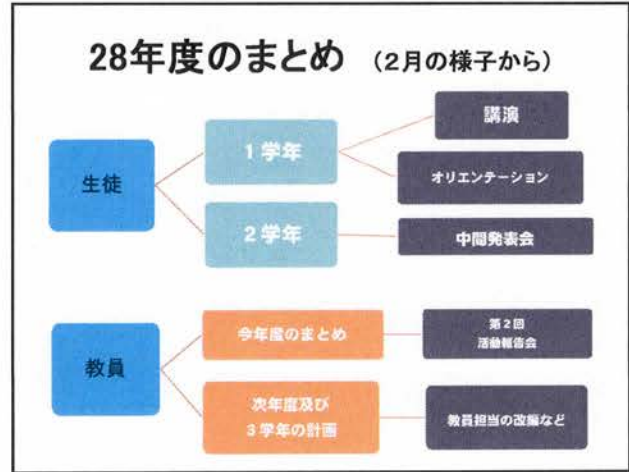


SGHスタディはパネルでの展示



タブレットの管理

27年12月 ようやく 85台設置

中間報告会準備

29年1月
各班でパワーポイントの作成





SGH活動報告会の様子(1)






【中間報告会 1月】

2日間に分けて、1グループ発表5分・質疑3分。






一部グループはSGH活動報告会で発表。

SGH活動報告会の様子(2)

1学年SGHスタディ授業参観





SGH活動報告会の様子(3)



生徒による
「スタディ」
「プログラム」
の報告



【1学年 2年へのオリエンテーション
2月】



2年生の中間発表を参考に



1年間の授業の復習を全員で

優秀研究発表会・表彰 28年9月17日



第3学年の取り組み 課題研究継続

平成28年4月～

学習内容
(前期で終了・9月まとめ)

コマ数

毎
週
土
曜
日
の
3
・
4
限

グループごとの研究活動	12
報告会(分野別/学年全体)	4
桐陰祭準備 → 桐陰祭発表	2
まとめ・アンケート	2
優秀研究発表会・表彰	2
合計	22

最優秀賞(グランプリ)	2108「文京区ハザードマップを改善せよ」
優秀賞	1004「東京オリンピックを見据えたインフォメーションアプリの開発」
同	3307「日本に対するイメージを元に日本の良さを伝える」
同	3106「性教育から考える同性愛への認識」
優良賞	1011「オリンピズムの具現化」
同	2201「ゲル法によるカルサイト作成」
同	2204「防災教育のあるべき姿」
同	2304「周囲の色の変化による映像への受入感の違い」
同	3205「コンビニの海外進出促進のための『観光コンビニ』戦略」
同	3401「日本人の宗教観」
優秀賞(文献調査部門)	2210「放射線と人間及び生態系」
同	3306「和紙の可能性」
優秀賞(フィールドワーク/実験部門)	2101「震災時における鉄道復旧のあり方」
優秀賞(プレゼンテーション部門)	3203「アジアにおける外食産業の海外進出際の経営方針」
敬賞(日常的な研究活動に対して)	1005「ショッピングバレーを広めたい」
同	2211「プラスチックが人間に与える影響」
同	3405「ユダヤ人はアイデンティティを失いつつあるのか」

※ 9月17日には、3学年「優秀研究発表会・表彰式」を学年で行い、SGH指導委員の先生方にご批評をいただきます。
また、2学年「SGH」の時間にも、優秀研究の発表を聞く機会を設けます。



SGHプログラム
筑波大学附属高等学校
平成28年度

編集 海外交流アドバイザー 橋本由香

**日中高校生
相互交流**



- 主催 イオン1%クラブ
- 後援 北京市政府
- 7月来日&10月訪問
- 人数 1年生10名
2年生10名 計20名
- 授業/ホームステイ/表敬活動



SGHプログラムの2種類

相互交流

- シンガポール相互短期留学
- 日中高校生相互交流

※ ホームステイの受け入れ必須

派遣

- アジア太平洋青少年リーダーズサミット (シンガポール)
- 国際学術シンポジウム (韓国)
- プリンセスエドワードアイランド大学 (カナダ) 28年新規
- 筑波UBCグローバル・リーダーズ・プログラム (カナダ)
- 国際ビエール・ド・クーヘルタン・ユースフォーラム (2年に1回)

**アジア太平洋
青少年リーダーズ
サミット**



- 主催 ホワチョン校
- 実施 7月
- 規模 14ヶ国/26校
- 人数 2年生3名
- 国際交流/関係構築/国際問題の認識など

APYLS



**シンガポール相互
短期留学**




- 主催 ホワチョン校
- 11月来日&3月訪問
- 人数 1,2年生6名
&中学生2名
- 授業/ホームステイ

HCI



**国際学術
シンポジウム**

IAS



- 主催 ハナアカデミーソウル
- 実施 7月
- 規模 韓国200名
日本・香港・中国他
- 人数(本校派遣)
2年生3名
- 事前調査/研究/寮生活

**筑波-UBC
グローバルリーダーズ
プログラム**

UBC

- 主催 筑波大学
附属学校教育局
- 実施 7月～8月(2期)
- 人数 1,2年生12名
- 事前研修(約50時間)
- 授業/観光&アクティビティ/
寮生活




日中高校生交流
中国(北京)

UBC
カナダ(バンクーバー)

IAS
韓国(ソウル)

Hwa Chong/APYLS
シンガポール

UPEI
カナダ(プリンスエドワード島)



**国際ピエール・ド・
クーベルタン・
ユースフォーラム**

- 主催 クーベルタン校
- 開催 2年に1度
春:選考 秋:本大会
- 規模 世界中120名
- 人数(本校派遣)3名
- オリンピズム/スポーツ交流/芸術
プログラム等



様々な訪問受け入れ

- G7ジュニアサミット
- EU駐日代表部
- 北米社会科教師招聘(経済広報センター)
- トルクメニスタン アザディ世界言語大学教員
など



**あらたに、カナダ
派遣プログラム
誕生!**

UPEI

- 実施 平成28年8月
- 主催 本校
- 人数 16名
- 事前研修
- 授業/現地高校生との
交流/ホームステイ



中間評価 平成28年9月

「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。」(16校)

筑波大学附属高等学校

○学内にSGH校内推進委員会を置き、そこを中心として全教員が本事業にかかわっている点など学校体制が整備されている。また、筑波大学の支援・指導のもと、高度な専門的観点からの助言等を得る体制を整備し、SGH事業の高度化・専門性を促進する努力を行っている点が評価できる。

○幹事校として、全体的にモデル校となる取組が行われている。今後は、海外や学外の学校や組織との連携をより拡充させ、より多くの生徒が取組に参加できるような機会を増やす工夫が望まれる。

○生徒の学びの向上や意欲の高まり、教員の意識の変容などに関する実証的エビデンスを用意し、今後、成果を検証する方法を準備し、改善に結びつける体制を整備することが望まれる。